

# 持続可能な発展のために

「環境の世紀」と言われている21世紀も、はや5年目を迎えています。しかしながら、さまざまな人間活動が地球の容量にせまり、地球全体でみた場合に環境の状況が改善しているとは言い難い状況にあります。このような状況下で、持続可能な発展に向け、私たちはさらに何をすべきかを問われています。

2003年8月コニカミルタホールディングス株式会社が誕生し、10月よりコニカミルタグループは、持株会社、事業会社、共通機能会社による新体制のもと、全世界のグループ会社とともに企業活動をスタートさせました。新体制に移行したとはいえ、「地球環境」は、コニカミルタグループ全体が一体感をもって同じ目標にむかって進んでいくようにしていかなければなりません。これは、持株会社の役割でもあり、私自身の役割でもあると思っています。持続可能な発展に向け、コニカミルタがメーカーとしてやるべきことは、製品ライフサイクルすべての段階で環境負

荷の削減を行うことです。そして、これをグローバルかつグループワイドに進めるためには、社員一人ひとりの環境意識が重要だと思います。

そこでコニカミルタでは、ISO14001のしくみを関係会社も含めたグループ全体で統合することで、統一のとれた環境経営を進めることに致しました。2003年度は、持株会社、5事業会社、2共通機能会社と一部の関係会社を含めたISO14001統合認証の第1ステップを完了し、2005年度の完了を目指して、現在、関係会社の統合拡大の準備を進めています。

コニカミルタグループ全体が取り組むべき基本姿勢のひとつに「グローバルな視点をもってオープン、フェアな風土を創ること」があり、そのための最重要施策のひとつにコンプライアンスを位置付けています。その範囲は、法令だけでなく企業倫理や社内規則まで広げており、これを徹底することで企業価値向上を図り、ステークホルダー（利害関係者）の方々の信頼を得られるよう努めていく考えです。

また、私ば「透明性」を大切にすることをモットーとしていますが、経営の透明性と同様に、環境面・社会面での透明性も重視しています。市民の方々に企業の地道な取り組みや考え方を知ってもらったり、逆に市民の目線から考え直す機会を増やすことの重要性が、企業にも社会にも増してきていると思います。情報の共有化やコミュニケーションによって、社会全体を活力あるものにし、連携を深め、相互の信用も高めるために、情報公開を今後も継続して進めていきます。

2004年7月



コニカミルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長

岩居 文雄

# 持続可能な発展のために。 私たちが考え、取り組んでいること

社会的責任を果たすことは、「新しい価値の創造」のための前提です。

コニカミルタグループでは「新しい価値の創造」を経営理念としています。この時代において新しい価値を創造し、お客様に共感と信頼いただくためには、企業市民として、社会的な責任を果たしていくことが大前提です。コニカミルタグループでは、環境を守るための各種取り組みや、さまざまなステークホルダーとの関係における社会的な側面での活動などを通じ、企業としての、そしてグループとしての社会的責任を果たしていきたいと考えています。

## グローバル、グループワイド、そしてライフサイクル、 という3つの視点で活動を行います。

社会的責任を果たす活動において私たちが重視しているのが、グローバル、グループワイド、そしてライフサイクルという3つの視点です。

生産・販売ともに海外比重が高く、またコニカミルタホールディングス株式会社を中心にグループ経営を行う以上、グローバル、そしてグループワイドという視点は、環境の取り組み、社会的側面に関する取り組みの双方において不可欠です。また環境面では、メーカーとして製品のライフサイクル全般の環境負荷を定量的に把握し、すべての段階で負荷を削減することを目指しています。

## 「測定なくしてコントロールなし」が 環境への取り組みの際の基本姿勢です。

環境面での取り組みを行うにあたって、私たちは「信頼性あるデータの確保と効果・影響の定量的な測定に基づき、環境課題の着実な解決に繋げることを基本姿勢としています。これに基づいて、重点施策として次のような活動を展開しています。

- 1 | **統合ISOによる環境マネジメント**  
ISO14001の統合認証により、グループ一体となった環境活動を推進します。詳しくは ▶▶▶▶▶▶▶▶10p
- 2 | **地球温暖化防止対策**  
製品のゆりかごから墓場まで、トータルでのCO<sub>2</sub>排出量を減らしています。詳しくは ▶▶▶▶▶▶▶▶18p
- 3 | **循環型社会への対応**  
使う資源を最少に。排出物は再び資源に。そして製品や包装材は回収・リサイクルします。詳しくは ▶▶▶▶▶▶▶▶15p・20p
- 4 | **化学物質による汚染の予防および環境リスクの低減**  
化学物質を扱うものとしての“責任ある配慮”を徹底しています。詳しくは ▶▶▶▶▶▶▶▶16p

## 社会的な側面では「コンプライアンス」と 「ステークホルダーとの調和」を重視しています。

一方社会的側面での取り組みは、

- 1 | **コンプライアンス**  
ガバナンスの柱と位置付け、コンプライアンス体制を整備しています。詳しくは ▶▶▶▶▶▶▶▶5p
- 2 | **ステークホルダーとの調和**  
情報開示・コミュニケーションを積極的に展開。あらゆるステークホルダーとの関係を配慮します。詳しくは ▶▶▶▶▶▶▶▶24p

以上の2点を軸に据え、日々の事業活動の中で取り組んでいます。